

## 第4回専門部会(7/6)での意見

既存の総合指標は、「市民自治がどう進んでいるのか。」など、行政視点での指標であり、「市民の暮らしがどう良くなったか」の**市民視点での指標**が必要ではないか。

## (満足度・生活の質を表す指標群) 内閣府

内閣府では、経済社会の構造を人々の満足度の観点から多面的に把握し、**満足度・生活の質を表す指標群**として**国民生活を11分野**に分けている。

次期総計の施策は、満足度・生活の質を表す指標群の分野とリンク  
(基本計画の進捗は、満足度・生活の質の向上といえる!?)

### 11分野(内閣府)

① 社会とのつながり

② 教育環境・教育水準

③ 子育てのしやすさ

④ 介護のしやすさ  
・されやすさ

⑤ 健康状態

⑥ 身の回りの安全

⑦ 家計と資産

⑧ 仕事と生活

⑨ 雇用と賃金

⑩ 自然環境

⑪ 住宅

### 13施策(次期総計)

施策1 地域コミュニティ・学び

施策4 地域福祉・生活支援

施策2 人権尊重・多文化共生

施策3 学校教育

施策5 子ども・子育て支援

施策6 障害者支援

施策7 高齢者支援

施策8 健康支援

施策9 生活安全

施策10 消防・防災

施策11 地域経済・雇用就労

施策12 環境保全・創造

施策13 都市機能・住環境

(次期総計では施策ごとに代表指標をおくことから、)  
「まちづくりの総合指標」の位置付けは、より**俯瞰的な視点**での指標が必要。  
また、市民目線での指標も検討

### ■ 行政視点

① 「ファミリー世帯の転出超過数」

② 「市民参画指数」

### ■ 市民視点

例えば

- ・ まちのイメージが向上したか
- ・ 施策の満足度
- ・ 居住継続の意向

# まちづくり基本計画における総合指標の考え方

現総合計画では、まちづくり基本計画の進捗を測る総合指標の考え方として、本市の課題などに着目する中でまちづくり全体を俯瞰的に捉える指標として、2つの指標を設定している。  
次期総合計画では現総合指標を継続しつつ、「市民の視点」である実感指標を追加することで、総合指標を強化したい。

継続

## ■ 指標：ファミリー世帯の転出超過数の抑制



・ファミリー世帯の転出超過傾向が本市の課題であり、その対策にはまちの課題に総合的に取り組む必要がある。

継続

## ■ 指標：市民参画指数の向上



・単に尼崎で暮らす人を増やすだけでなく、まちづくりに積極的に参画する人を増やすことで、まちの魅力や活力を高める。

新

## ■ 指標（案）：まちのイメージが改善したと感じる市民の割合



【設定の考え方】

- ・イメージ改善が過去から課題（尼崎らしさの議論でも多数意見あり）
- ・すべての施策に通じる
- ・全年齢を対象としている
- ・市民がまちの課題とする“マナー”問題と関連が深い など

行政目線

客観指標

市民目線

主観（実感）指標

### ■ 専門部会での論点

「市民視点での指標をイメージの向上にすることについて」



【補足】

各施策に対する市民満足度（指標）については、総合指標としてではなく、施策評価において活用を検討